

平成30年（2018年）12月7日（金曜日）

三島市長選 ■課題を探る（上）■

駅南口の再開発事業



事業協力者が決定した三島駅南口東街区再開発事業の計画地

観光交流のハブ機能注目

「伊豆の玄関口」といえるJR三島駅は、来年のデイスティネーション・キヤンペーン（DC）、2年後の

東京五輪・パラリンピックと大型イベントが続くことから観光交流のハブ機能と

しても注目を集める。その

三島駅の南口再開発事業を巡って、今、市内が揺れて

いる。

再開発事業は1997年、国鉄精算事業団から市土地開発公社が用地払い下

げを受けたことから本格的に始動した。市は2012

開発公社からの土地取得費現計画に「推進」、「見直

きな争点の一つに挙がる。東街区は今市長選でも大

きな争点の一つに挙がる。3人立候補予定者とも再開

発の必要性を認めた上で、現計画に「推進」、「見直

る事業協力者と8月に協定を結んだ。今後、都市計画案を作成する東街区に市民の注目が集まっている。

事業協力者の公募案の中で市民が抵抗感を持ったのが高層タワー棟の99・5億円（補助金30億円、市営駐車場増床分7億円、土地

に4回開催した。参加者は

8月が約430人、10月が

合計約570人だった。来

年2月にも予定している。

「提案力見る」公募案 計画変更の可能性も

年、駅周辺グランドデザインを作成し、東街区を広域健康医療拠点、西街区を広域観光交流拠点と位置づけ、再開発を模索してきた。現在、西街区のうち、約0・34haは20年6月オープ

ンを目指し、低階層に商業施設を含むホテル（約200室、高さ57・5m）を建設中。東街区約1haは民有地だ。負担額についても「24億円は公社からの土地買

24億円）や市民への説明不足を不満要因に挙げる。

市は公募案について「提案力を見るため」と計画変更の可能性があることを示唆する。来年2月を目標に

具体的な機能、高さなどを三島市で9日告示、16日投開票される任期満了に伴う市長選を前に、同市の課題を探った。

24億円）や市民への説明不足を不満要因に挙げる。

市は公募案について「提案力を見るため」と計画変更の可能性があることを示唆する。来年2月を目標に

具体的な機能、高さなどを三島市で9日告示、16日投開票される任期満了に伴う市長選を前に、同市の課題を探った。